第５回　邑南町小中学校の在り方検討委員会会議録

１．日　　時　　令和８年２月２７日(金)　１３：３０～１５：３０
２．場　　所　　邑南町健康センター元気館　会議室
３．出席委員　　松本委員長、山下委員、山中委員、武田委員、土田委員
４．事 務 局　　原課長、甲山補佐、松浦係長、野田

[開会]
１．学びのまち総務課長あいさつ

２．議題
（1）第４回検討委員会までの振り返り

松本委員長：
　本日は非常に大きなヤマ場です。前回も方向性をお諮りして皆様に決めていただいたところですが、諮問に対する答申が近づいてきています。
　答申の記述が、この会は統合ありきということでは全くなく、会を進めてきました。
　今日までに、前回第4回は、12 月5日金曜日に田所公民館で行われましたが、そこでいろいろな意見をいただきました。いろいろな意見をいただいた中から答申に向けた案を今回は提示しております。
　資料の確認ですが、第１回から第４回、小中学校の在り方検討委員会のキーワードをまとめたものがあります。現状についてや、「統合したら、しなかったら」、「地域」、「邑南町」には「どんな魅力があるか」、また、「アンケート結果」など、事務局にまとめてもらったものです。やはり「ふるさと教育」だとか、「地域と一体」、「学校の授業の現状」、そういうものがこの中にたくさんキーワードとしてあると思いました。
　私を含めた５人の皆さんはこれまで邑南町の子どもたち、地域の皆さんと非常に深く関わりを持ってこられた委員の皆さんです。
　繰り返しますが、この会は、統合ありきとか統合なしだとか、そういうことではなくて、『子どもたちの成長にとって何が一番大切なのか』、『子どもたち自身が学び育ち、大人になっていくわけですが、しっかりと町のことを思い、町の中に残ってほしい』という思いは非常に強く、そうでなくても、『ここで育った子どもたちが、生き生きと生きていけるそんな教育は何か』ということについて、お一人お一人、それぞれの立場の経験から、意見を語っていただきました。
　前回は、委員長提案として、“統廃合”というところを示させていただき、決めていただいたのですが、どことどことが統合するということでは全くなく、「方向性を決めた」ということが一番大きいです。
　一人一人の中にも、統合について「すべき」、「すべきでない」という意見や、これまでの町の魅力などから、これで十分じゃないかという意見もたくさんありますし、私自身も委員長として実感しています。それぞれお一人お一人の中にも、「統合」か「現状のまま」かの２つの回答の中で揺れ動いていたのも４回の会議を通して実感しているところです。
　これまでの議論を踏まえて、答申の中身、この答申の構造について少しお話をします。まず、答申、1 枚ものの紙があります。これが答申書になります。
　邑南町教育委員会諮問に対する答申、諮問は、「邑南町の小中学校の学びの在り方、小中学校の再編について」で、この諮問を受け、それに対する答申、回答になります。

（答申読み上げ）

来週の第6回にこの答申を提出するので、議論する最終の会が今日です。
A4、2 枚の資料は、『「邑南町小中学校の在り方検討委員会」における委員長最終提案・答申に向けて』です。そして、別添資料「邑南町小中学校在り方検討委員会報告」を見ていただく前に、まずはこれまで 4 回を振り返って、お一人お一人の感想や思いを忌憚のないところでご発言いただけたらと思います。

武田委員：
おまとめいただきありがとうございました。大変な作業であったことを推察いたします。
非常に悩ましい課題がいっぱいあるので、それぞれを断定するのが難しいと思いながら 4 回を過ごしていましたが、先生方のいろいろなお立場からのお話が伺えたのが、非常に勉強になったと思いました。
保護者の目線から見ただけではなくて、これまでの歴史的な経緯であったりとか、先生方のいろいろなご苦労といったことも知ることができましたので、その上で何が必要なのかということを、考えさせられました。
アンケートを取れたのが非常に良かったと思っています。実際に皆さんがどうお考えになってるのかという思いの片鱗ですけれども、少しヒントが頂戴できたのかなと思っています。
今回答申をということですが、おそらくなんというか、「これが」というのは最後まで言えないような気がしていて、これから議論を町民や保護者の皆と広めていく第一歩の答申なのかなというふうに個人的には思いながら、協力させていただいた次第です。以上です。

松本委員長：
ありがとうございます。第 4 回目のところで方向性を決めました。今武田委員からあったように、この会は「どこ」と「どこ」が統合するという細かなところではなくて、子どもたちのことを思えば、統廃合の方向というその方向性を決めたというところになります。
その統廃合というところの大きな道筋は示しましたが、その中に盛り込んでほしい子どものためを思う様々な施策、教育方法について細かく「報告」の方で述べています。後程「報告」は確認したいと思います。
それでは土田委員、よろしくお願いします。

土田委員：
改めて、答申という形にまとめていただきまして、松本委員長、教育委員会のスタッフの皆さん、本当にありがとうございます。
ちょっとほっとしていますが、これからまたもっともっと詰めていかなければいけないのだろうというのが、実際のところです。
私個人としては、今邑南町の教育支援員ということで、春と秋と、この間 2 月に、この役目をいただきながら、11 校を回ったことで、邑南町にある小中学校を、本当に我が事として意識しながら、そして先生方がどんな思いを持っておられるだろうか、子どもたちがどんな学びをしているだろうかということを、私なりに丁寧に見せていただくことができて、すごく良かったと思っています。
来年度から高学年が全然いなくて、3学年以下でやっていかなくてはいけない学校もあります。小さいなりに、やはりすごくその良さを生かして、皆さんがやっておられました。縦割りグループとか地域の方、小さければ小さいほどやはりそうやって地域の方に入っていただいて、本当にうまくやっておられます。小規模校の校長先生が、「本当に 1、2 年生のう

ちは丁寧にやっているから、絶対うちに来てもらったらいいと思うよ」と自信を持っておっしゃって、一人一人のウェイトが大きく、目も向きますし、子どもたち自身が１人１役をやらなければいけないというか、スポットが当たる率が高く、とても生き生きと学んでいるなと、あの姿を見て本当にうれしくなりました。

それから、中にはやはりちょっと学校に行きにくく、なかなか学校にさえも通えないといった状況の子どもたちがおられるのは事実です。私としてはそういったニーズもいろいろと聞きながらこの１年間様子を見てきたので、やはり統合という方向に向いたとしても、相当細やかに見ることができていた邑南町のこれまでの教育の良さはぜひ残してほしいと思います。子どもたちのことを丁寧に見ていくことは続けながら、集団の中で自分が成長できるというような、そんな環境ができるといいと思っています。

そういった要素がこの中に組み込まれてまとめていただけると嬉しいです。以上です。

松本委員長：

ありがとうございます。

土田委員は特に不登校や、それぞれ問題を抱える子どもたちもこの邑南町にいて、この小さな町、小規模校だからこそ、こういう子どもたちを大事に育てたいというところで、来年度以降の議論では、そこをしっかりと引き継いでいってほしいと思っています。

土田委員ありがとうございます。

それでは山中委員お願いします。

山中委員：

これまでの会議で何を言ったかと思って、会議録をもう１回読み返しながら見ています。基本的には、本音のところは変わっていません。いろいろな自治体が統廃合を進めて、島根県内でもありますが、子どもが少なくなれば統廃合問題が沸いてきます。子どもたちも少なくなって寂しいだろうから統廃合は仕方ないという方も多いでしょう。邑南町のアンケート結果でも再編の話し合いを進めることについて仕方ないとする人が多いというような傾向があるわけですが、私は子どもたちにとって本当にそうなのかというのは、甚だ疑問だというのはずっとその考えを通してきたつもりでいます。

私自身も、どちらかといえば小規模校で育っておりますし、私の子どもが３人ほどおりますが、もっと小規模校で、上の娘は確か同級生が２人か３人しかいないところで小学校６年間過ごしてきました。本人に確認していませんが、私は「良かったな」、「いい環境で育ててもらったな」という思いを今でも持っております。

実はここに来る前、午前中に県立の社会教育研修センターの所長のところに行ってきました。私の後輩で、数年前まで日貫小学校の校長をしておりましたので、邑南町の勤務経験がある、しかも小規模校にいた経験もあることから、どう思うかというようなこともちょっと話をして、それからここへ直行してやって参りました。

全校児童が５人いれば、５人の教育課程を組めばいい。10 人いれば、10 人の子どもたちをどう育てるかという教育課程を組めばいいわけなので、何らそれに問題はないのではないかとのことでした。適正人数と言うけれども、５人が適正な教育課程を組めば、それは適正な教育課程だといえるというような話をしました。

決して少人数が絶対だというようなことを言い切るつもりはありません。いろいろと固定化された人間関係も小規模校だとあるので、６年間、極端に言えば、いつも威圧的な同級生の友達にいじめられながら、大変だということももしかしたらあるかもしれません。私はそういうところこそ教員の力量が問われるところだと思っていますけれども。

ですからいろいろなことがあるので、一概に「こっちが正しい」とか「間違い」とかいうことはないとは思いますが、世の中の統廃合を加速するという動きが、果たして安易にそれに傾くことがいいことかというのは、ちょっと私は疑問だなという気持ちを持っているというところです。

それから私は現職の 38 年間のうち半分を学校の教員として、もう半分を社会教育主事として、地域の、主に公民館の方の業務をしておりました。ですから、そういう立場もあってここに来ています。

学校の周辺では、学校から子どもたちの声がします。「全校の皆さんおはようございます。今日は 2 月 27日金曜日です。今日も 1 日頑張りましょう」と学校の放送が地区内に響くわけです。朝に大きなスピーカーから流れる子どもたちの声を聞いて、その地区は 1 日が始まるわけです。その地区に学校がなくなったら、静まり返ったような寂しいような地区になってしまうのではないかと思い、できることならそういうことになってほしくないという、地域への思いがあります。

だからこそそうならないために、特に邑南町は、地域ぐるみで子どもたちを育てるようなことを一生懸命これまでも取り組んできておられますので、何とかそういった気持ち、地域の人たちの気持ち、そしてそういう中で育まれる子どもたちの姿が、この先どういう方向に行こうとも変わらない、維持発展していくような格好で物事を進めていただきたいなというのが私の願いです。

松本委員長：

ありがとうございました。

山中委員の気持ちは、この会議の中でも十分ではないかもしれませんが、一人一人共有できたと思います。

私自身も、邑南町の小規模校にわりと長く関わらせてもらって、その中の児童が今高校生になって、新たなクラブを立ち上げていると聞きました。もう感慨無量です。

そんなことを皆さんご経験されていると思うので、そういう成長をいかに未来に続けていくのかということを、山中委員にご意見をいただいたと思います。ありがとうございます。

それでは山下委員、お願いします。

山下委員：

そうですね、私は 27 歳の時に、大学の教員になったのですが、その時以来、島根県下の複式学級を受け持っている先生たちの指導教員として、先生たちの支援をずっとやってきました。58 歳まで約 30 年間、こういう、へき地と言われる学校で一生懸命子どもたちと向き合っている先生たちの支援を大学でやってきました。日貫小学校へ初めて行った時に、1 階から 2 階へと階段を上がりながら、子どもの数は少ないけれども、そこで行われている山と生きる教育ということで、子どもたちの一人一人の声が、しっかりと学校全体にこだましながら、子どもたちの心に響き合って、参加している我々も小学生から学ぶことがありました。

だから教育というのは地域を越えて、知識と技能の教育「陶冶」と、意識と態度の教育「訓育」と言いますが、それは常に教室なら教室という場の中で学んでいる「一人一人の子どもたちの心に響く何か、その頭によぎる何か、知識と技能の和というようなものが、他の友達との響き合いの中でずっと広がり深まって高まっていくんだろうということをいつも経験してきました。今、令和の時代になってきて、我々が昭和の時代にそういったことを一生

懸命やっていたのだけれど、時代は変わっても、そしてその学校というその地域性は変わっても、追及すべきことはほとんど変わらないものとしてあるのではないのかと思います。
　だから子どもたち相互お互いにまなざし合う、指さし合う中で、学び合えるような学校空間、教室空間をいかに作っていくのかということが一番大事なことで、それを子どもたち同士が、そして教師も一緒になってできるような地域共同体というのか、そのような教室環境、学校環境があれば十分なのではないのかなと思います。
　ただ、どこかとどこかが統合するようなことはもってのほかで、教育にとって大切なことは「一人一人がどう眼差し合えるかどうか」、「心理、真実をどう眼差していけるかどうか」の、その決意というか、心構えを、すぐ引き出すことが一番大切なことで、それを教師の皆さんにも、保護者の皆さんにも期待したいことで、地域の皆さんにもぜひ支援していただきたいことだと思います。

松本委員長：
　ありがとうございました。
　それぞれの委員のお気持ちの中に、いろいろな意見があります。委員の中には、「いや統合は・・・」というご意見も今の発言の中からお聞きできたと思います。
　それらを受けて、前回第４回では、答申の内容として方向性を決めてもらったわけですが、答申は先ほど示した１枚もので読み上げました。
　続いて別添、「報告」の確認をしていきます。こちらに皆さんが今発言された内容が含まれているかどうか、誤字脱字、見落としてるところがあろうかと思うので、確認していこうと思います。

　（報告読み上げ）

　委員の皆さんそれぞれ、これまでの４回、そして今日が５回目ですが、先ほどの発言も踏まえて、この中の文章について、ご確認もしくは追加でご発言いただけたらと思います。

武田委員：
　本当に、きれいにまとめていただいたと思っております。あのとき発言したのをここに入れていただいたんだと思いながら拝見してたのですけれども、そうですね私はもう一旦これを出していただくのでいいかなというふうに思っています。特に追加とか減らすとかいうのはないような気もしています。本当にお書きいただいたとおりで、うちの下の子はまだ２歳で、小学校に上がるころには、世の中が本当に変わっているだろうなと最近つくづく思っています。この子が 20 歳頃に、大学が今のままあるのだろうかというような気さえしています。
　こんな変化の波が来ている入口におそらく今我々は立っているところで、この度この在り方検討委員をさせていただく中では、邑南町での小規模校も含めて、いろいろなところでの取り組みをもう一度洗い直して、できればこれからの時代につなげていくという意味で、おまとめいただいたのが大事だなと思いつつ、これから先は何かこうもっと頻繁にこういう検討が必要なような気もしているので、今回答申したら、10 年 20 年大丈夫というよりは、こういったそもそも学びとは何だろうかという議論が頻繁に行えるような雰囲気に持っていけたらいいなと思いながら聞いておりました。以上です。

松本委員長：
　武田委員ありがとうございます。

本当に保護者の立場から貴重なご意見をたくさんいただいたとともに、アンケートの件では本当にお世話になりました。ありがとうございました。おそらく皆さんの意見が入っていると思います。
それでは土田委員、お願いします。

土田委員：
多様な学びといった辺りも入れていただいて良かったなと思っています。
今、武田委員も言われたのですが、やはり学校もですが、地域の人たちが、子どもたちの話を聞ける場があるといいなとすごく思いました。というのも私はこの間のフィンランド交流に高校生が出かけて行って帰ってきた報告会、それから石見中学校の 2 年生たちが、総合学習で、邑南町のこれからを考えて、こんなことをやったらいいんじゃないかというようなことの発表会を聞きに行かせてもらったのですが、本当に子どもたちはその年代、年代で、やはりすごくすてきな意見を持ち、思いを伝えてくれていて、何かそんなこと言ったって無理だなというようなこともあるかなと思うのですけど、子どもたちが言っていることは、こういうことを今思ってるんだということで、それを聞くことはすごく大事だと思いました。多くの町の職員が聞いておられ、保護者の方もおられましたけれども、このような発表を、本当にいろいろな人にもっともっと聞いてもらえる場があるといいと思います。現在、「将来のことについて今ちょっと不安に思っているんです。」ということを、いろいろな町の方や、いろいろな地域の先輩の話を聞くというような場も用意しておられて、とてもいいなと思います。こういった場をもっともっと広げていってほしいし、大人が生き生き、大人自体が話し合う場というのも必要で、声に出してそれを聞き合って、安心して受けとめてもらえるんだというような雰囲気が、邑南町のあちらこちらで見られ、そんな雰囲気になっていくと本当にいいなとすごく思います。
この邑南町の規模だからこそ、そして、学校教育と地域が繋がっているこれまで積み重ねている雰囲気があるからこそ、子どもたちの声をもっとみんながフランクに聞く場がほしいし、大人同士、保護者同士が語り合える場が欲しいなというのをすごく思います。そんな感じが邑南町らしさとして、1 つ実現していく時に入っていくといいなと、いろいろな場で思いました。
それから、丁寧な話し合いが必要だとの話が出ましたが、実はですね、冒頭で学びのまち総務課長がおっしゃった町政運営説明会の中で、この統合について在り方検討委員会の報告もあると思い、どんなふうに皆さんが聞かれるかなと思って様子を見に行きました。在り方検討委員会については、あまり皆さん食いつかれず、どちらかというと、公民館の在り方の点について、非常に意見がありました。これからどうなるのだろうか、すごく揺れていました。
私たちも公民館にそれぞれ各主事が教育委員会から派遣されていて、すごく丁寧に公民館活動をしてきているのが、邑南町の取り組みとして特色があるということを、山中委員もすごく言ってくださっていて、だからその公民館があった上での「ふるさと教育」も積み重ねていきながら、統合しても公民館がうまく回ったらいいというイメージだったかと思うのですが、今その公民館の主事の配置ですごく揺れていて、町長の話の持って行き方が結構ポンッと持って行かれた感じになって揺れています。
公民館の主事の配置でもこんなに揺れるのだと思ったので、よほどこの学校を今後どういうふうに持っていくかというのは本当に丁寧にやっていかないと、これはちょっと大変だなとすごく思いました。地域の社会教育をどうやっていくのかも併せて本当に今二本立てで話し合っておられるのですが、やはり丁寧に積み重ねて、イメージを皆がちゃんと持った

上で、この学校の統廃合についてもやっていかないといけないのではないかと私は今感じているところです。以上です。

松本委員長：
　ありがとうございました。公民館のことは私もある程度は聞きました。公民館のこともありますが、私たちは「子どもたちの育ち方」について議論しているので、ここはぶれてないので、委員の皆さん、自信を持ってほしいところです。
　４月以降、ちょっと大変な側面も感じつつ、私たちは現状のこの案を答申として持っていきたいと思います。今、土田委員が言われた中で一番念を押しておきたいのは、地域ごとにその地域の人と子どもたちとの対話の場、交流、これは加えたいと思います。

武田委員：
　公民館の件で地域の雰囲気をちょっと知っていただきたいです。今非常に地域の方々がこれを高く問題意識を持って議論をしておられて、私もそのいろいろなお話を伺っているのですけども、これがどういう方向性になるかわからないですが、非常に心強いなという印象を持っています。皆さんが社会教育について、高い問題意識を持っておられるとともに、公民館が子どもたちにどんな影響を及ぼすかということも非常に高く、問題意識を持っておられます。
　このたびの公民館の件から、今度は学校の統廃合の議論も同様に行われるような気がしていて、この流れの中でみんなで学びとは何だろうかというのも、全年齢で、語り合えるような雰囲気になりそうなので、この答申がそういった方々に、今度はこの議論をみんなでしようというようになったらいいと思いながら、伺っていたところです。

松本委員長：
　ありがとうございます。そうなればいいですね。山中委員お願いします。

山中委員：
　この現状と課題のところを読んだときに、最初のポツは、地域の人との交流が盛んだけど子どもが少なくて、課題があるということ。３つ目のポツは文科省は一定の児童生徒数が必要だと言っているので、ちょっと学校規模は小さいということ。その次のポツも、同級生が１人もいない学校があったり、同性が複数いるような学校は必要だけど、いない学校があるというように、現状として困った状況だという文言が連発しています。
　現状としては、満足しているというアンケート結果があるにもかかわらず、現状と課題は、課題の方を非常に強調した、解決すべき課題というか、そっちを非常にこう強調した言い方になってしまっているので、現状として、その満足している部分は何かという記述もあっていいのではないかという気がしました。

松本委員長：
　ありがとうございます。
　この３番の現状と課題ですね。確かに４つ目のポツで、「同性が複数いない学校があります。」以降の文章はいらないかもしれません。
　各学年に児童がいて、同性が複数、要するに現状を示しているのでこの後に文章を続けると、山中委員が言われるように、何かこう、これが課題だと受けとめられるかもしれません。現状だけにしましょう。

文科省あたりは、少ないのは課題と言って日本全国に統廃合という波を吹かせてはいるのですが、その辺の書きぶりも難しいような気がします。何か案がありますか。

山中委員：
今日のニュースで、中学校の義務標準法（公立義務教育諸学校の学級編成および教職員定数の標準に関する法律）の1学級の人数を 40 人以下から 35 人以下に下げ、より少人数にしました。その先は小学校だってもっと減らすかもしれません。だから邑南町の学校が児童数が少ないからといって、これは文科省の基準よりも少ないからまずい状況だということには、あまり気にする必要はないかなと思います。少ない中でも、良い教育ができている部分もあるということを、逆に言ってもいいのではないかと思うくらいです。

松本委員長：
わかります。了解です。それでは山下委員お願いします。

山下委員：
何年前だったでしょうか。日貫小学校に夕方からいって、一緒に PTA 会長さんたちと話したことがありました。文科省から日貫小学校が、何かの指定校だったと思うのですが、邑南町の小規模校が、文科省から評価されているということを、言っていかないといけないのではないかと思いました。お互いに認め合って、受けとめ合って、高め合っていかなければと思います。
私は邑南町の小中学校に 15 年間授業研究ということでずっと関わってきました。今年は 6 校に行きました。来年度また 5 校の小中学校に行きます。島根県下を見た時に、邑南町の小中学校の授業は非常にレベルが高いのではないでしょうか。それは子どもたち、保護者、地域の人たちが学校に対してすごく協力的で、温かい支援を送り続けているということがあるし、また邑南町の子どもたちが一生懸命自分の学びに対して自覚的に取り組んでいるということがあるのではないかと思っています。この雰囲気を、我々の委員会としても保てるように、また維持発展できるようにしていくような改革のあり方というのは忘れずにずっと持ち続けていかなければいけないのではないかと思います。
小さければ小さいほどいいというわけでもないのだろうし、やはりある程度の規模数を想定しなければいけないのかもしれませんが、現状では、彼らの学力は大丈夫だと私は思っています。

松本委員長：
山下委員ありがとうございました。
邑南町には様々な小中学校があります。小規模校の良さというものをこの文章の中に盛り込んだつもりですが、もう少し詳しく見ていきます。来週の答申に向けては、文言的なことや誤字脱字は事務局と委員長の私に任せてください。何か困ったら、山下副委員長に相談させてください。
ということで、文言的にはよろしいですか。先ほどの小規模の箇所は少し工夫してみたいと思います。山中委員の言われるように、本当に小規模での良さというものを出したいという気持ちがあります。
お一人お一人の委員の意見がそれぞれこの中に盛り込まれていると思います。過不足はないと思いますので、これをもって答申、1 枚ものの答申と、この答申から別添報告を見ていただくように、この報告をもって、次回答申にかえさせていただきたいと思います。

山中委員：
　6 番の「再編の話を進めるにあたって」というところの 2 つ目のポツに、「学校教育だけでなく部活動や地域のクラブ活動、スポーツといった」とあります。スポーツは地域のクラブ活動に含まれているのではないでしょうか。スポーツを取り立ててポツを別にしたのは何か意味があるのでしょうか。地域のクラブ活動とは、文化的な活動とスポーツ活動だと思います。

松本委員長：
　そうですね。今、山中委員の言われたように、「地域の文化的活動及びスポーツといった」に文言をなおしましょう。いかがですか。

山中委員：
　はい。結構です。
　それと 5 番の最初のポツの最後のところの、「このような活動は見習わなければなりません」という文言は、例えば「継続発展させていかなければなりません。」と変えるのはどうでしょうか。

松本委員長：
　ありがとうございます。ぜひそうしたいと思います。
　それでは修正をもって、次回、教育長への答申にかえさせていただきたいと思います。本当に委員の皆さん、眠れない夜が幾つもあったんじゃないでしょうか。私はありました。特にですね、ある小規模校の子ども、兄弟だとかですね、複数人が頭に浮かんで、その子たちが高校に行って、時代を切り開く力を持って部活を立ち上げたり、そういう姿を見ると、そういった良さは残していきたいと思います。残していきたいというのは子どもたちの成長の材料といいますか、内容だとか、我々の関わりですね。そう思った次第です。
　答申の中でも口頭で、教育長にお伝えできることもあります。文章にできにくい、皆さんの思いなども伝えたいと思います。
　本当にこの 5 人という限られた中ですが、多くの時間、心身ともにこれに費やした時間というのは、町のために、来年度以降に託す重要な報告になったのではないかと思います。
　委員の皆様、そして事務局の皆様、そして今日、お越しの地域の皆様、本当に見守っていただきありがとうございました。今後の町の教育に生かしていけたらいいと思います。今後とも、私たち 5 人、町のためを思っていきたいと思います。
　委員長として、すべての皆さんにお声をかけて、この会議を閉じたいと思います。皆さんどうもありがとうございました。